

2003年度 秋季 通常総会議事録

日 時：2003年9月26日(金)17:00～18:00

場 所：愛媛大学城北キャンパス共通教育講義棟大講義室(A会場)

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。総会出席者数は145名、事前投票総数は355である。出席者のうちで事前投票をした33名については、事前投票を無効とした。したがって有効出席者総数は467名で、定足数(正会員総数1,534人の5分の1=307名)を満たすことを確認した。次に署名人として面高俊宏氏、吉田春夫氏が選出された。

議事の経過および議案の採決結果

議 案

1. 第1号議案 2004年度事業計画(案)(資料1)

杉山理事より2004年度事業計画(案)の説明があり、質疑応答の後、原案どおり賛成多数で承認された。質疑応答としては、創立100周年記念出版事業に関する今後の予定について、国立天文台の亀野誠二氏から質問があり、岡村創立100周年記念出版編集委員会委員長より次の説明があった。レベルは学部生も読むことが可能な程度で、全部で15巻程度を予定している。現在、各巻の内容について議論を進めていて、編集委員による第1次案を作成し、近いうちに天文学会会員にweb上で公開、広く意見を求める予定である。最終的には、2007年の1年間に15冊全巻を出す計画である。つづいて、東京大学半田利弘氏より、小委員会と委員会の違い、具体的には、創立100周年記念出版編集委員会と教材小委員会がなぜ名称上異なっているのかについて質問があり、理事会で検討することとなった。つづいて、2号の増刊が予定されている欧文研究報告に関して、増刊の内容や今後の月刊化への予定について国立天文台の高野秀路氏より質問があった。蜂巢欧文研究報告編集委員長より、今回の増刊は特集号であること、月刊化は人員不足のため急遽行うことは困難であるが、今回の増刊でテストする予定であるとの説明があった。

2. 第2号議案 2004年度収支予算(案)(資料2)

関井理事より、2004年度収支予算(案)の説明があり、質疑応答の後、原案どおり賛成多数で承認された。質疑応答としては、国立天文台の大石雅寿氏より、学術交流費による若手の旅費補助に関して、これまで理事会評議員会などで話し合われてきた内容を教えて欲しいとの質問があった。関井理事から、旅費補助の基本となる考えは、若手が経済的問題で年会に参加できないということのないようにする、という説明があり、つづいて高津評議員(京都大学)より、若手の会の取り組みが紹介された。具体的には、アンケートを行い、それに基づいて分配の方式などを工夫しているとのことである。須藤評議員(東京大学)からは、現在は大学院学生にも科学研究費による旅費補助が可能であることの紹介と、各研究機関、研究室に対して、可能な限り科学研究費を用いた補助を期待する旨の呼びかけがなされた。小杉評議員(宇宙研)から、賛助会員になることのメリットが必要なのでは、という意見が出され、松田理事長からは、今回の年会から賛助会員の名簿を受付に掲示していること、また学会ホームページ上にも公開しているとの説明があった。

3. 第3号議案 第15期評議員候補者(資料3)

松田理事長より、第15期評議員候補者が紹介され、原案どおり賛成多数で承認され

た。今回、これまでの15名から10名に改選数が減員になった事情について、改めて説明があった。

報 告

1. 創立100周年記念出版事業編集委員4名の増員(資料4)

松田理事長より、理事会において決定され、評議員会でもすでに報告のあった創立100周年記念出版事業編集委員4名の増員が報告された。

2. 要望書-天文学に関する社会教育施設の充実-(資料5)

松田理事長から標記要望書に関して報告があった。記者会見には新聞記者7名が出席し、その後6件以上の記事として紹介されるなど、大きな反響を呼んだ。

3. その他

(ア) 天文学会各賞の推薦依頼

天体発見賞選考委員会山岡委員長より天文功労賞の推薦、研究奨励賞選考委員会嶺重委員長から研究奨励賞の推薦、のそれぞれお願いがあった。後者は特に観測分野からの推薦も期待しているとのことである。

(イ) 記者発表について

国立天文台の林 左絵子氏より、年会直前の記者発表の概要について質問があり、土居理事より説明があった。

2003年10月21日

議 長 松田卓也

署名人 面高俊宏

署名人 吉田春夫